

幸区区民会議 第5回専門部会B「子育て・環境・魅力づくり部会」

開催日時 平成19年1月18日(木) 午後6時30分～8時30分

会場 幸区役所5階第2会議室

参加委員

専門部会B委員 今井淑子部会長、松世三重子副部会長、小保方健次、小島春男、酒井道子、
庄司佳子、菅野勝之、成田信子、根本健、深瀬和則

専門部会A委員 葉山直次

事務局(総務企画課) 高橋主幹、北谷主査、上松職員、吉田職員

(株)CSK 福田研究員

(以上 16名)

次第

- 1 「魅力づくりと市民活動の推進」・第3回区民会議への説明及び提言内容について
 - (1) 部会での検討経過及びまとめ
 - (2) 補足説明及び今後の取り組みについての提言
- 2 「安心して子育てできる環境づくり」・第3回区民会議への検討状況の説明について
 - (1) 検討項目について
 - (2) 今後の部会での検討の方向について
 - (3) 第3回区民会議への検討状況の説明者について
- 3 その他
 - (1) 第6回専門部会の日程について

司会進行：松世副部会長

開会

本会議の情報公開に関する委員の了承。

次第、配布資料の確認。

議題

- 1 「魅力づくりと市民活動の推進」・第3回区民会議への説明及び提言内容について

松世副部会長が、配布資料1及び2に基づき、これまでの検討内容と前回出された意見を確認し、意見交換を行った。

松世 「日吉の地域資源(加瀬山、夢見ヶ崎動物公園、矢上川など)を活かした取組について」は庄司委員に説明してもらうことでよい。

菅野 その前に確認したいことがある。事務局には区民会議の要綱をもう一度配布してもらいたい。区民会議は「まちづくり推進委員会」と違う。「まちづくり推進委員会」は実践が伴う部隊だが、区民会議は実践が主体ではない。14万区民に対して、何をどうすればいいか意見を聞き、市長、区長に提言し、市長、区長が予算をつけて実践する。実践を報告するよりも、区長に何を提言するかだ。極端に言うと、僕たちがやってきた活動を拡大することが区民会議の役割ではない。

たとえば、音楽なら、神奈川県民謡協会の委員長が戸手町に住んでいる。その人たちはその人たちで、幸区で音楽を広めたいと考えている。そういう問題を含めて、幸区の音楽がどうあるべきかを検討すべきだ。緑だと言っても、市民健康の森の「加瀬山の会」がある。操車場跡の夢広場は1

億円をかけて緑をつくった。さいわい緑道は町内会が受託して緑を管理している。パークシティは1年間で1千万かけて緑を管理している。600万円は緑化班を作って緑を管理している。根本さんの意見を聞きながら、全市の緑をどうするかという立場で検討するのがこの会議の役割だ。委員一人ひとりの活動をどう拡大するかではない。その点をきちんとしてほしい。

前回、成田さんがいい発言をした。読み聞かせにしても、どういう内容を読んで聞かせるのかを決めるために、民主的などという組織をつくれればいいかを提言する場ではないか。成田さんの活動を応援することを討議する場ではない。ひとつ例をあげると、坂上田村麻呂の扱いひとつをとっても、高等学校の歴史の教科書で教えることと地域史では内容が違っている。この部会で討議するのは、どんな本を読んで聞かせたらよいか、それを討議するための組織をどう作ったらよいか、意見を出し合う場ではないか。成田さんの活動を応援することを討議する場ではない。

今井 確かにそうかと思う。今までの経過を踏まえて、こう進めればよいというイメージはあるか。

菅野 ひとつの私見として例をあげると、子育てとといったときに、現在、区内に待機児童がどのくらいいるのかをきちんと資料を集めて討議をする。子どもの安全問題について、どうすればいいかという問題。加瀬山は動物公園なのに、子どもだけで行ってはいけないという校則を作っている学校がある。それをどうしたらいいかという問題。PTA や学校を説得できる方策はどんなものがあるのか。こども文化センターは、昨年までは市民活動支援センターの所轄だったが、来年4月1日から市内54箇所のこども文化センターは、市から委託された財団法人かわさき市民活動センターが管理する。予算を少なくするのはいいけれど、それによって子どものサービスが低下したら、区民としてどうなのだという問題などがある。

今井 子育てについては次回以後の検討になる。深く検討するなら、次回からゆっくりやろう。

高橋（事務局） 確かに菅野委員の言うとおり、実践が主体ではない。どんな取組みをすることで、幸区全体の地域の活動が広がりをもつか、よりよくなるかという観点から提言をもらうことがひとつの柱である。その提言を広げるためのきっかけづくりとして、こういう活動がいいモデルになるのではないか、というつながりをはっきりしないと、特定の団体に対しての提言と勘違いされる恐れがある。基本は、幸区、地域で活動がどうすればよくなるかだ。そのポイントをきちんと話した上で、そのためのきっかけづくりとして、こういうモデルがあるので、まず自分たちができるとしてこういうことを提案したいとつなげないと誤解が生まれる。

皆さん、縦の活動、テーマごとの活動は一生懸命していただいている。ただ、全体の活動へ広げる上で、横の接点を持つことを重視し、心がけることで、よい方向に進むのではないかとことがベースにある。

また、皆さんが活動をする上で、活動する拠点があり、情報をきちんと提供できるとよいという話がある。その辺がきちんとできていくことで、地域で活動している人の取組みにつながり、広がりができる。そういう柱を具体的にどう進めればいいのかの取組事例として、庄司委員が提案する地域の資源を横につなげるようなモデル事業をし、そういった取組みが、御幸など他の地域に活かされればよいと感じている。

個々の事業の実践ではなく、提言の大きな柱が何かを明確に話すことが重要だと、菅野委員からお話いただいたのかと思う。その点を含め、もう一度皆さんで確認していただきたい。

庄司 この会議に参加しながら、どうしても実践に気持ちが行ってしまいがちだ。実践は事例としてあり、その上に何を構築していくのかを話し合う場だ。自分の取組みも、モデル事例として紹介したい。一つひとつの活動がつながることと、それを地域資源と結びつけることが、市民活動が盛んに

なる中で次のステップにつながる。

夢見ヶ崎動物公園に子ども一人で行ってはいけないというのは、大きな問題だ。その点について、子育ての人と話し合いをすとか、まちづくりについて話し合う場を作っていけるとよい。

松世 庄司委員から、地域資源を活かした取組みのモデル事例ということで紹介してもらおう。

「活動拠点の活性化、市民の活動に関する情報提供の取組みについて」は、今井委員から説明いただけたらと思うがどうか。

今井 活動拠点の活性化というと、場所。それから市民活動に関する情報提供ということになると、テーマが二つになり聞いている人は焦点がぼける。幸区としてすぐできる、横のつながりを構築する方法として、コミュニティサイトについて重点的に説明したい。配布資料にもある通り、アクセス数も伸びている。これを区として活用しない手はない。その方法を検討してもらおう。これを活用することでつながっていけるといふ提言をしたい。

松世 コミュニティサイトに関することは、今井委員に説明してもらおう。

「健康づくり、子育てなどと音楽活動との連携の取組みについて」と「身近な場所での出張コンサートの取組について」は、ひとつに括って考えたいがどうか。「安心してできる子育て環境」が次に取組むテーマとして挙がっているので、ここでは、ひとつにまとめて説明した方がわかりやすい。

庄司 そうですね。

松世 夢コンサートで、幸区民のたくさんの人に魅力を知ってもらおうと提言した。その点について、具体的に加瀬山で夏休みを利用し、子育てしているお母さんや子どもから、お年寄りまで楽しめるコンサートを企画中である。日吉地区なので、いろいろな団体と手を組み、夢コンサートが広がっていくとよい。庄司委員の提案とも協働し、音楽はいろいろなところに入りこめるので、手をつなげられるとよい。そういったことをまとめて発表したい。

高橋（事務局） 再確認をお願いしたい。区の活動全体に広がる提言として、各団体が横につながる取組みを進めよう、各団体のつながりをつくっていこうという柱と、皆さんの団体がつながるように情報を提供していこうという二つの柱がある。一つ目の柱の具体的な取組みの例として、モデル的に日吉の資源を活かした取組みをする。もう一つは、音楽という接点を持ちやすいテーマがあるので、そのテーマを使いながら、横のつながりを持っていく進め方があるんですねという二つの提言をする。

コミュニティサイトについては、情報提供をもっときちんとやろうという中に、コミュニティサイトという仕組みがあるので、これをもっと知ってもらい、もっと使ってもらうことが情報提供の中のよい例としてあるので提案する。それだけではないが、一例としてコミュニティサイトがある。こういう形で、三人が説明をする。個々の取組みの推進ではなく、目的は横のつながりを作って、お互いの活動を広げ、それが全体の取組みにつながるとよいということと、情報がきちんと行き渡る仕組みがあった方がいいですよという二つの柱が言いたい項目だ。そのためのモデルとして、事例をあげる。菅野委員の発言を聞いて、このように感じた。

菅野 僕よりも、発言する人が、今事務局で言ったような提案を認めるかどうかだ。三人が今の発言を理解できたかどうかを確認の方が先だ。僕は事務局案に賛成だ。

今井 説明する人が気をつけないと、ある特定の団体のみと区民の方にとられる恐れがあると感じた。モデルとしてやってみませんかという形で提言しないと、区民が反発する危険性はある。

成田 きちんと整理した形で説明しないと、話があちこちに飛んでしまう。原稿を書く時点できちんと話し合い均等をとらないと、どこかがでしゃばってしまう。そうすると、重心がとれない。

今井 これについて取組もうという目標がひとつあり、それに向かって皆で何をしていけるかという話をすれば、わかりやすかった。モデルをつくろうということから話をし、二箇所モデルをつくり、そこを介してつながっていこうという話で進んできた。

深瀬 モデルを作ることが実践になるのか。

今井 具体的にこうしようとなると実践になる。区民会議というのは、こういうことをテーマにして取組んでいこうということをもとめる場だ。

庄司 モデルを作ることと実践は違うのではないか。かなり、その点を混じりながら今までは進めてきた。この会では、目的のみを話し合い、実践には触れないというのは難しい。今回の報告の主体は、つながりを広げていくことと情報提供だ。その中に事例があり、いろいろな意見があり、それがステップアップする。モデルと実践は切り離せない。

松世 区民会議は実践の場ではないが、団体に帰ったら実践の場だ。区民会議で出た提案を持ち帰り、団体に帰って実践する。事例として区民会議で決まったことが、自分たちの団体に帰り、こういう結果になったと報告してもよい。

酒井 区民会議だより3ページに「知ってもらおう！地域の生活を豊かにする活動 一つひとつがつながることで広がる魅力」とキャッチフレーズがある。この二つが大きな柱になる。そのためにどうするか話し合ってきた。その一つとして、モデル地区を設ける。キャッチフレーズだけでは漠然として、捉えどころがない。いろいろな活動が区内にあるという話が出て、それらの横の連携を推進していこう。そのためにモデル地区を設けてやってみようという話になったと思う。柱を中心に、連携するためのいろいろな取組み方の中で、モデル地区を設けて取組んでみようという話になった気がする。そういう発表でよいのではないか。

今井 つながることと情報提供の、大きく二つの柱があり、モデルを示す。そこを応援するわけではなく、具体的な例としてつながる素晴らしさ、楽しさをまず知ってもらおう。

根本 日吉の地域資源、活動拠点の活性化、健康づくりと子育て、音楽活動と、具体的に4項目ある。この4つの中で、どれをメインにするのか。つながりはあるが、どれをポイントにするのか。それを決めないと出てこない。すべてよいことだが、どれをポイントにして他とのつながりをつなげながら、アピールし、行動を起こすか。

たとえば、音楽を主体にするなら、コンサートは野外もあるし室内もある。野外なら、どこでやるのか。人はどの人たちを集めるのか。人数はどのくらいにするのか。具体的なところまで踏み込まないと決まらない。やるといってもどういう方向がいいかわからない。とりあえず、どれかでスタートさせる形をとらないと、区民会議では発表できない可能性が高い。

今日の配布資料に、委員の各団体の活動が収録されているので、どことタイアップすればうまくいくのか。ここに収録されていない団体や、一般の人たちはどうするかということにもなる。そういう方向性を持ってこないで、区民に浸透しない。活動団体だけが動くという形では、効果が出せない。その点を考慮し、新しいテーマをつくり、イベントをやっていかないといけない。

今井 キャッチフレーズはあるが、一本テーマがあった方がいいということですね。確かに、聞いている人がわからない。短いテーマがある方がわかりやすい。

根本 4つの中のどれにするかを決める。

高橋(事務局) 先ほどの趣旨をもう一度確認させていただくと、4つのどれが重点かというより、4つから何を目標しているかが重要になる。一つは、今までのつながりを横につなげていく方がよい効果がある。もう一つは、情報をきちんと出していく体制をつくる。それを進める例として、4つを

説明する。ポイントをわかりやすく説明するということは必要だが、どれか一つに重点を置くということではなく、4つから何を指すのかをきちんと説明する。何を指しているかを明確にしないと、つながりが見えてこないのではないか。

根本 た例えば、音楽活動、コンサートをやるなら、場所をどこにするかを設定する。野外なら一番いいのが森の中であれば、夢見ヶ崎動物公園だ。そういう風にとりあえず決めてしまう。横のつながりとあるので、他のグループに話しかけをする。そういうつながりを用いながら、交流を重ねながら、コンサートを成功させる。たくさんのグループを巻き込み、団体に入っていない区民を巻き込みながらしないと成功とはいえない。そのための提案をすべきであり、各団体の提案ではない。人であったり、場所であったり、団体の交流であったりする。そうしないと提案にならない。最終的には区民、住民をどうするか。そこまで考えながら物事を進めないといけない。自分たちの活動の範囲で止まってしまう。

菅野 音楽といっても鑑賞団体と実践部隊がある。子どもにどんな楽器を触らせるかという問題もある。昨年9月5日に、鹿島田の商店街と消防団第4分団が、防災と音イベントを開催した。音楽でも、民謡、歌謡曲、クラシック、ロックなどあらゆる分野を、市の消防隊、商業高校の楽団、民謡の先生などを呼び、順番にやったのでびっくりした。こういう連携をすでに商店街はやっている。音楽活動との連携をつかむといっても、基本になる討議がぜんぜんされていない。子どもたちに楽器を与えることがいいのか、聴かすことがいいのかなどについて、今まで討議をしていないという欠陥が4つに出てきている。だから事務局としては、全部を含めて今後の方向性を討議したらどうかという提案かと思う。だから僕はそれに賛成だという言い方だ。基本のところはぜんぜん討議されていない。

第1回目のときに市民活動に対する意見が違ったんだから、そこでネットワークを作るとか言っても、自分に言わせれば笑わせるなという印象だ。ネットワークを広げるなどと事務局は言うけれど、その提案は第1回目のときに否定されている。自主的にやっている市民の活動を否定しておいて、あとはネットワークだけやろうなどといっても、そんなことは話にならない。

今井 発表の原稿は事務局が作ってもらえるのか。

高橋(事務局) 発表者で作成していただきたい。

松世 自分たちが話し合っていることの魅力、横のひろがりを持てば、地域といろいろな意味でつながりを持ち、幸区の魅力を引き出せるということを提言すればいいと思う。根本委員の言うことはもっともだが、それは実践になってしまうので、それは各団体でやることであり、そこまではこの会議ではやらなくてもいいと感じる。庄司委員、今井委員、松世委員の三人でキャッチフレーズにそった形でまとめて話をしたいと思う。

小島 決めたとおりにやってくればよい。

松世 1月22日までにまとめて、事務局に提出するんですね。

高橋(事務局) 当日の資料をつくる関係があるので、今のような話を整理し、項目は箇条書きでよい。こういう目的で、こういう提言をするという内容でまとめていただきたい。

2 「安心して子育てできる環境づくり」 第3回区民会議への検討状況の説明について

松世 「安心して子育てできる環境づくり」は、前回の話を絞り込み、どう検討を進めるのか意見交換したい。前回、成田委員と酒井委員から提案があった。

今井 酒井委員からは「子育てしやすいまちづくりについて」、成田委員からは「読みかせ運動の推進

について」の提言があった。

松世 絞り込んで検討したい。1月25日には、こういう形で検討しているということを報告したい。誰が報告するか。

酒井 テーマとしてはこうだが、具体的には、子どもが安心して過ごせる場の整備ということで、御幸公園の整備を提案した。すでに5年計画で工事が始まっているので、完成を待つことになる。また、安全に登校できるまちづくりについては、菅野委員がまちづくり推進委員会で危険箇所の調査と改善する取組みをしているという話があった。課題としてあげたことについては、取組みが既に進んでいることになる。子育てしやすいまちづくりの環境をつくることについて、どう考えていけばいいか、逆に皆さんに聞きたい。

今井 ハード面になると行政への要望書になる。ハードは私たちがどうこう提言することではない。

菅野 提言なのだからよいのではないか。区長にやってくれという提言があってもよい。

今井 皆でどうしていくかということなので、ハードだけではない。こういう課題を解決するには、こういうことも必要だ、ハード面も必要だということで、ハードについては行政に願います。

成田 公園を使っているお母さんはいろいろなことを考える。子どもは年代によって活動が違う。児童公園が区内にたくさんある。今、酒井委員が御幸公園の話をしたが、他のお母さんたちの状況がどうなっているのかを一つずつ拾い、行政がどう対応しているか、こう改善すればいいという提案ができるとうい。きちんと整理し、公園の使い方を深めていければよいと思う。

読み聞かせをこれからどうしようかと悩んでいる。講師を呼んでくれといったときに、私はどう動いたらいいのか。個人としての参加なので、実践的にどう動けばいいか不安な面がある。実践につながられる提案でないと、何のために意見交換しているのかわからない。確実につながられる提案でないといけないので、悩むところだ。

庄司 子育てしやすいまちとは、子育てに携わっている方がどんな悩みを持っているか言いやすい、言える場がある、方法があるということを考えている。それを解決する方法として、こんなやり方があるということ話し合う。前回、道路に旗があって危ないという意見があった。実際にそう思っている人たちの声を主体的に集めたり、商店街と話し合う場を設けたり、場づくりのきっかけを提案する。できれば、一度実践することで、「やればできるんだ、区民は積極的に言ってください」ということを具体的に提案できる。どこかがやってくれるのではなく、それぞれが動かないと変わらないということが伝わる。ここでのキーポイントもつながりかと思う。

深瀬 商店街の立場とすると、酒井さんが前回言っていたように、商店街としても安心して買い物してもらい、子どもにたくさん来てもらうようにしないといけない。そういう提案をし、私たちが持ち帰ってよくしていく。先日商店街の会合があって、そういう話をした。

今井 子育て支援センターだけでなく、あちこちに子育てのお母さんたちの集まりが増えている。他にもあるかも知れないので、あることを知ってもらう。それをつなげていく。それを区として、区民がどう子育てしやすい区にしていくか。どこにどういう資源があり、どういう活動をしているのかをまず知って、つながって、広げていく。小さい活動がたくさんあると思うが、それがどこでいつ何をしているかわからないし、知ってもらい、どう連携するかにつながる。

成田 つなげることは大変だ。お母さんたちの声は、子どもが大きくなるとわからない。一番苦労している人、わかっている人から意見を拾うには、サークルの中から拾うのがよい。いろいろな意見を聞くことが大事。ネットワークを作りづらいなら、子育ての講習会や読み聞かせをやる中で、お母さんたちの声を拾っていくことで、ハード面も含めて広がりが出てくる。そこでネットワークをつ

くるのが一番早い気がする。

菅野 保健所が、子育て組織が一番おさえているのではないか。

小島 社会福祉協議会が把握している。

酒井 母親クラブも減少している。グループで活動するのが減ってきている。子育て広場みたいなものは市民館でもやっているし、幼稚園の空いている建物を利用し、民生委員や主任児童委員が主催している。未就学児童のグループに関わっているので、安心、安全が一番気になる。安心して子どもを安全に遊ばせるところが重要と感じる。子育て支援とよく言われるが、言葉だけで空回りしている。実際には、一人ひとりの意識の問題が大きい。思いやりを持ってみられるかだ。ベビーカーを押し歩くと、邪魔くさい目で見られる。見る人の意識を、いい方向に変えていけないかと思う。子育てしやすいまちづくりをしましょうということだけでも、それを区民会議から発信してもらえると、もう少し温かい目で見てもらえるかなと感じる。どういうことを具体的にすることも大事だが、子育てしやすいまちづくりをみんなでやっていこうという呼びかけも必要だ。

小保方 子どもたちが成長し、大きくなればなるほど遊び場がなくなる。子育て段階は屋内が多い。外での遊びは、冒険として多少の怪我は必要。怪我がないのは楽しい遊びではない（怪我から学ぶことも多い）。自分が子どもの頃は、まっ黒になって帰ってきた。路地裏があり、外で遊んだ。今の公園では、ボール遊びをしてはいけない、何はいけないと禁止だらけ。公園もブランコと滑り台がないと公園でないなど定義がある。ボールを蹴とばしたりキャッチボールをしたいが、小さい子が怖くて遊べない。中学生でも遊びたいが、遊ぶ場所がない。公園でキャッチボールをする運動が全国的に起きている。キャッチボールはボールの投げ渡しだけでなく、小さい子どもにやさしいボールを投げるなど、心の問題だ。親とのつながりができる。キャッチボールがいけないのは、なぜいけないのか、柔らかいボールならいいだろう、お母さんと一緒にいいだろう、お父さんと一緒にいいだろうなど考える。お父さんが中心になり、キャッチボールやボール蹴りができる公園がほしい。昔は商店街が歩行者天国で開放され、キャッチボールやベーゴマで遊んだ。

子ども会が遊ぶときには、学校の校庭を借りてしまう。そうすると、近所の子どもが入ってこられないので、誰もが自由に遊べるということと矛盾している。池田小事件以来、身分証明書がないと学校に入れなくなった。子どもたちを、たくましく、強く、遊ばせることが希望だ。矢上川で魚を捕まえたり、そんな活動をしながら応援できるとよい。

魅力ある幸区をつくるには、老人も、大人も、子どももみんな対象になる。その中で、矢上川なら、お年寄りも散策、子どもは魚とりなどができる。河原町団地の近くのバス停の三角地に、ジュニアリーダーと一緒に花壇をつくった。そこで、泥遊びをするだけでも、子どもたちは喜ぶ。小さい公園に行って、どろんこ遊びをさせたいが、砂場は犬や猫の糞で汚れている。

未就学児、就学児、大人など対象によって話しが絞られる。そうではなく、もっとシンプルに考え、やさしい言葉で話したい。

菅野 幸区にプレイパークをつくらうという団体がひとつあり市民館に属している。今は、加瀬山で年に一日だけ遊んでいる。そういう組織をもっと育てていかないといけない。世田谷のプレイパークでは運営委員会をきちんと作り、怪我は行政の責任にはしないことが必要だが、そこまで行政とは交渉しきれない。法律的な問題もある。

庄司 夢見ヶ崎プレイパークを作る会は、最近、わんぱく広場を中心に新鶴見操車場跡地の周辺で、毎月開催している。

今井 未就学児と就学児の話に分かれる。

酒井 子育てしやすいまちづくりは、お年寄りや障害者にもやさしい。商店街は、障害者が車椅子で移動するにも移動しづらい。全般的に広げてしまうと、どうしていくというのが困るので、とりあえず未就学児とお母さんが安心して過ごせるまちということで提案した。

今井 ハード面も含めて、安全安心に子どもたちが過ごせる幸区ではどうか。

松世 小保方委員の話に、小さい子どもからお年寄りまでであった。公園はコミュニティで、人が集まり地域のつながりができる場所だ。そこが安全、安心か。子どもがそこで遊び、お年寄りがアドバイスをする。その関係が、なくなっている。公園を活かした地域とのつながり、子どもたちが安心して遊べ、お年寄りとの接点を持てる場所ということに絞って検討できるとよい。

今井 安心で安全で、子どもたちが生き生きと過ごせる幸区。

小保方 遊びに安全、安心はいらぬ。防犯の考えだ。

成田 子どもが元気に遊ぶことと、安全、安心は、正反対のことだと私も思う。学校を開放しない。通学路ですら大丈夫かと考える毎日。その反面、子どもをのびのびと育てたいという願望がある。何をしてもいいという大きな遊具があっても、裏が死角になっていて、どうなっているのと考えてしまう。

小保方 怪我を恐れてはだめ。痛みを持って、覚える。喧嘩をして痛い目に合えば、喧嘩もなくなる。乱暴な言い方ではあるが、逆は真なりということもある。もちろん、違う場合もあるが。無責任に言うように聞こえるかもしれないが、いい意味で怪我を推薦している。

酒井 囲いをつくり、囲いの中で無菌培養するのもよくない。ただ、夢見ヶ崎公園に子どもだけで行ってはいけないと同じように、御幸公園も一人では行って行けない。多摩川も遊ぶには最適だが、危険な場所と言われて、子どもだけで遊びに行ってもいけない。子どもたちにいろいろな規制がかかる。そういう場で、いかに子どもをのびのび育てるか。御幸公園も整備、見通しよく、安心して、子どもから大人まで自由に過ごせるいい公園になるとよい。下平間の公社住宅の裏が大きな公園になった。いろいろな年代の人が集まり、過ごしている。子どもがたくさん楽しそうに遊んでいるのが印象的だ。明るく、誰もが過ごせる公園ができるとよい。

今井 あそこの公園はいいよという情報はわかるのか。

成田 子どもは地元で遊ぶ。歩いていける距離にある公園だ。

松世 お年寄りが公園で朝など日向ぼっこをして話をしている。お年寄りも公園にたくさん行ってほしい。その中で子どもたちも遊ぶ。いろいろな人の目が行き届く公園。近くの公園はお年寄りが話し合っている姿を見かける。未就学児は昼間の時間帯、夕方は小学校の生徒と、時間帯で移り変わる。公園をフルに使えるまちづくりができるとよい。

今井 そうなると、目がたくさんあって安全だ。

菅野 道路などでも、時代によって変わる。北加瀬の鎌倉街道は頼朝のための鎌倉街道ではない。平清盛までは荘園が中心に租税を組んでいた。武士の時代になったら、領主が年貢を納めるようになった。鎌倉街道は武士の権力を守るための軍事道路だった。終戦後も、国道1号線と409号線の間で東芝の小向工場がある。そういう幹線道路を最重点にした。それが今は、生活道路を大切にすることを明確に出さないといけない。まちづくり推進委員会の第2期では、その点を明確にした。区役所の周りは、どういう基準で、誰が、立派な道路を整備しようと決めたのか。区役所の周りよりも、もっと必要な生活道路がある。生活をし、災害、震災のときに避難できる道路が最重視されないといけない時代に入ったということを言っておきたい。

今井 公園に避難して集まってもよい。

菅野 最終的には小学校。第一次の避難は小学校ごとに決めている。僕の家は日吉小学校まで一番遠いが、鹿島田駅の裏には広場があり、操車場跡地がまだあるので、そこにまず避難する。

松世 1月25日の報告者は、提案委員のどなたかをお願いしたい。

庄司 とりあえず年代は重要だと思う。中高生には場所もない。酒井さんは未就学児ということで、あまり広くしないという意見だ。年齢とテーマを絞らないと、広がってしまう。

今井 酒井委員、成田委員は未就学児を想定していた。

成田 読み聞かせは、大学生が聞いても楽しめる。本の選び方などいろいろな部分で、小さい頃からやっていくといいという提案だ。多摩区には、小さい子どもに老人会が読み聞かせをするサークルがある。昔話であったり、いろいろな体験談を話をしてもらい、年代を超えてやっていくことが重要なことだと思う。

今井 説明は酒井委員か成田委員をお願いしたい。年代は絞った方がいいか。

成田 今の段階では絞った方がよい。

小保方 提案者が時間の範囲で言ってもらえばよい。5分を分担して発言すればよい。

松世 2人をお願いする。

小保方 2人でないと提案にならないし、言いたいことを言えない。そこに、今出た意見を加えてもらう。

高橋（事務局） 説明時間は5分程度を見込んでいます。

菅野 各5分ずつで説明する。時間を守ることが大切だ。

松世 1月22日までに原稿を提出する。

高橋（事務局） 事前に郵送するには、22日（月）締め切りとしたい。酒井委員と成田委員から各5分程度で説明をしてもらい、内容については、事前に皆さんにお知らせする。22日にもらえば、24日に到着する。

松世 1月25日の報告者はこれまでの取組みは、庄司委員、今井委員、松世委員、現在の取組みは酒井委員と成田委員をお願いする。

3 その他

第6回専門部会は、3月5日（月）午後6:00、区役所プレハブ会議室で開催する。